

令和7年度 学校関係者評価報告書

大阪市立北中島小学校 学校協議会

1 総括についての評価

本年度の「運営に関する計画」最終評価について、意義なく全員一致で「妥当である」と承認された。

2 年度目標（全市共通・学校園）ごとの評価

年度目標：①安全・安心な教育の推進

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を前年度以上にする。
(令和6年度 77.8%) → (令和7年度80.1%)
- ・年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。
(令和6年度 3.16%) → (令和7年度2.94%)
※不登校児童の在籍比率・・・不登校児童数が、全校児童のうちの何割を占めているかを表した数。(不登校児童数)÷(全校児童数)で算出。
- ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。
(令和6年度 40%) → (令和7年度57.1%)
※前年度不登校児童の改善の割合・・・前年度不登校児童をもとにして、何割が改善したかを表した数
(前年度不登校児童数) - (不登校児童数) ÷ (前年度不登校児童数) で算出。
Ex. 20人→6人 (20-6) ÷ 20 = 0.7 → 70%

学校独自の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「自分にはよいところがあると思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より3ポイント増加させる。
(令和6年度 76.8%) → (令和7年度81.0%)
- ・小学校学力経年調査における「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」に対して、肯定的に答える児童の割合を前年度より1ポイント増加させる。
(令和6年度新設) (令和6年度 97.3%) → (令和7年度96.0%)
- ・年度目標の評価はAにしてよいのではないかと。そう思えるほど、成果をあげている。非常に素晴らしい。
- ・これからも子どもたちのために、教職員一丸となって取り組んでもらいたい。

年度目標：②未来を切り拓く学力・体力の向上

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を45%以上にする。
(令和6年度 44.5%) → (令和7年度40.0%)
- ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
(令和6年度 5年 国1.06、算1.15
4年 国0.99、算0.96
3年 国1.05、算1.06)
→ (令和7年度 6年 国1.04、算1.03
5年 国1.05、算1.03
4年 国0.96、算1.00)

- ・小学校学力経年調査における「運動やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を68%以上にする。

(令和6年度67.2%) → (令和7年度67.0%)

学校独自の年度目標

- ・小学校学力経年調査における「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間読書しますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」に対して、「全くしない」と答える児童の割合を、前年度より7ポイント減少させる。

(令和6年度 30.1%) → (令和7年度28.9%)

- ・校内調査において、11時以降に寝ている児童や8時以降に起床している児童の割合を前年度より減少させる。

(令和6年度 11時以降就寝25.5%・8時以降起床7%)

→ (令和7年度 11時以降就寝21.5%・8時以降起床10%)

- ・年度目標と中期目標の目標数値の違いに違和感を感じる（年度目標と中期目標で同じ項目になっているが、年度目標の方が数値が高く目標達成には至っていないものも、中期目標では目標達成していることについての質疑あり）が、学校として努力していることはよく分かる。

- ・基本的な生活習慣については、学校や子どもの努力というよりは、保護者がしっかりしなければならないことである。

- ・今後も取り組みを継続して、子どもたちのために尽力してもらいたい。

年度目標：③学びを支える教育環境の充実

大阪市教育振興基本計画に掲げる目標（施策目標）を達成するための年度目標

- ・授業日において児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数の年間授業日に対する割合を前年度以上にする。（令和6年度新設）

(令和6年度 83.6%) → (令和7年度1月まで92.0%)

- ・ゆとりの日を週に1回以上設定・実施する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は4日以上、夏季休業期間以外の休業期間においては2日以上設定する。

→ (令和7年度 ゆとりの日週1回設定・実施、学校閉庁日夏季5日、冬季2日設定)

学校独自の年度目標

- ・令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は家庭・地域との連携を密にとっている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を85%以上にする。

(令和6年度新設) (令和6年度 79.4%) → (令和7年度87.2%)

- ・令和7年度末の学校保護者アンケート「学校は教室や廊下など、子どもたちが学ぶ環境を整えている」に対して、肯定的に答える保護者の割合を80%以上にする。

(令和7年度新設) → (令和7年度 89.4%)

- ・保護者アンケートで、学校が連携をとっていることや学校が環境整備に努めていることについて評価が高いことは喜ばしい。

- ・学校が働き方改革に向けて取り組んでいることは評価できる。何より、管理職も働き方改革にのっとなって、時間的なゆとりをもっていることを望む。引き続き教職員の働き方改革に取り組んでももらいたい。

3 今後の学校園の運営についての意見

○子どもの実態はさまざまである。どの子にも得手不得手があり、一つの項目の数値が下がっても、もう一つが上がっていれば良いとも言える。それ故、数値だけにとらわれないよう今後も学校運営を行っていただきたい。

○校内の緑化部分が枯れているところがある。こういったことも含めて、校内の環境整備・環境美化に努めてもらいたい。

○引き続きさまざまな取組を進めてもらいたい。